

第27回 飯田女子短期大学学内研究集談会

Part 1 口演・報告

日時: 令和5年2月14日(火) 9:00-12:00 会場: 飯田女子短期大学 多目的ホール・teams会議

プログラム

- 9:00 開会の辞および挨拶
- 9:05 報告: ものづくりと地域文化 ～家政専攻デザイン系の取り組み～
..... 田中洋江
- 9:25 口演: COVID-19流行禍における養護教諭の歯科保健教育
～学校給食後の歯磨きと児童・生徒の口腔衛生状況から考える～
..... ○安富和子・福田博美・小川真由子・山田玲子
- 9:45 口演: 小学生の学校管理下における歯髄への影響がある歯牙破折の危険要因の検討
～2019年度日本スポーツ振興センター災害給付状況の分析結果より～
..... 澤田有香
- 10:05 報告: 実践報告 「Expression2022の取り組み」
..... ○松永幸代・宮下幸子・中本貴規
- 10:25 休憩 (10分)
- 10:35 報告: 動物を介在した授業の実践経過
..... ○太和田雅美・伊藤みき・佐々木晃美・原 義隆・小笠原京子
- 10:55 報告: ルミナコイド研究会の活動報告
..... ○友竹浩之・千 裕美・片山直幸・岩瀬彩香・羽生里緒奈・小林 暁
- 11:15 口演・FD: 授業改善アンケート結果 (令和3年度)
..... ○三浦弥生・高木一代・菱田博之・山下 梓・柄澤八代衣・山口正之
- 11:35 口演・SD: キャンパスライフに対するアンケート結果 (令和4年度)
..... ○稲吉政岳・桑原真裕子・武分祥子・竹村 香・林 正樹・三浦弥生・渡邊千春
- 11:55 閉会の辞・アンケート記入

Part 2 展 示

日時: 令和5年1月19日(木)～2月14日(火) 会場: 飯田女子短期大学本館廊下掲示板

研究ポスター

- DPC対象病院の術前患者教育の実態に関する研究
～専門部門設置による術前患者教育の効果の比較～.....○山下 梓・山崎章恵・白鳥さつき
- A県の術前オリエンテーションに関する実態調査
～外来における実施状況～.....○山下 梓・早出春美・山崎章恵・白鳥さつき

展覧会のポスターと展示風景の写真

- 展覧会報告 田中洋江

報 告

実践報告「Expression2022の取り組み」

松永幸代・宮下幸子・中本貴規

報告の概要

幼児教育学科Expression（表現学習の発表会）は今年度43回目の開催を終えた。

コロナ禍での発表は学科内に限定されたが、開催について重ねて検討し、方法を模索してきた。また、コロナ禍における開催に合わせて、取り組みにも変化が生まれた。今年度の変更点は大きく3点ある。今回は、その3つの変更点を中心にこれまでの取り組みも振り返りながら、幼児教育学科の教員全員で取り組んできたExpression2022について報告する。

今年度の変更点

① 人形劇に絞ったプログラム

「人形劇のまち」飯田にある保育者養成校として、人形劇の制作から上演までに取り組むことは大きな意味があると考えた。

② 1年生（Expression I）との連携を密に

昨年度までは、2年生の指示に従って音響効果や照明などの操作を行うことが1年生の「支える」活動であった。今年度は人形の操演練習開始時期から、1年生も練習に参加し、共に意見を出し合いながらより良い人形劇を作り上げる形に変更した。

③ 姉妹園他での出前公演

以前は、地域の子どもたちが、Expressionの観劇を楽しみにしてくれていた。学生も観客の反応を感じ、自分達の表現がより高まることを感じていたが、コロナ禍では観客を招くことができなくなってしまった。

今年度は、姉妹園に協力をお願いし、出前公演を行った。

取り組みの成果

① 人形劇への理解

人形劇の観劇経験のある学生はそれほど多くない。そこで、最初に外部講師による上演を見ることでその楽しさを知ることになる。観劇体験を通して「子どもが人形に心を開く」ことを実感できた。それを出発点として、自分達の作品を考えることにつなげることができた。

② 協働で作上げた作品

1年生が、初期段階より主体的に関わることで作品理解が深まる。また、2年生の意図もくめ、共に作品を仕上げしていく気持ちで取り組むことができたと考える。

③ 保育と人形劇

幼稚園の遊戯室や放課後児童クラブのホールでの公演は、短期大学の講堂とは違い、音響効果や照明に制限があった。しかし、学生はそれぞれ工夫してその場に合った形での上演を行った。舞台と客席との距離も近く、子どもたちの反応を身近に感じることができた。保育現場での人形劇上演は、この取り組みの本来の目的である「保育者の表現力を高める」に迫る重要な取り組みであったと考えている。

まとめ

Expression2022では、保育現場での上演ができたことが大きな成果であった。学生は子どもの反応を得て、その反応に応えながら、その場で表現を見直すことができた。今後も続けていきたいと考えている。

1年生と2年生が共に試行錯誤し、作品を作り上げる姿も見ることができた。今後は、時間の確保や進め方等、更に検討が必要である。

報 告

動物を介在した授業の実践経過

太和田雅美・伊藤みき・佐々木晃美・原義隆・小笠原京子

1. 研究の背景と研究目的

1987(昭和62)年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定されて、介護福祉士という国家資格をもつ専門職が誕生した。当時、介護福祉士の仕事は、「身体上または精神上的の障害があることにより日常生活を営むのに障害がある者」に対して、「入浴、排泄、食事その他の介護を行うこと」となっていた。しかし、2007(平成19)年の改正で、「心身の状況に応じた介護を行うこと」と変更された。このことは、単に身体的な介護だけではなく、心理面、社会面を含めた利用者全体を捉えて支援するという個別的アプローチを行う「個別ケア」の必要性が認識されたということになる。

「個別ケア」を実践するためには、利用者一人ひとりの暮らしの在り方を踏まえたうえで、その人の生活の具体像を理解することから始まるが、その多様性、複合性から生活とは何かを示すことは、容易ではない。介護福祉の実践は、その多様な人を理解した上で「よりよく生きる」ことを支援することであり、人間の多様性の理解はその基盤となっている。

介護福祉士の養成において、「人間の尊厳と自立」「人間関係とコミュニケーション」「介護の基本」といった科目で、「尊厳」「自立」「人を理解する」「自己覚知」「他者理解」「人間の多様性の理解」等を学ぶが、実体験として他者の多様性を理解することは、1年後期の学外実習までない。そこで、「犬を飼う」ということを通して、それぞれの学生が自分と向き合い、他者を理解するという取り組みを導入してみた。「動物が好き」「動物が嫌い」「好きだけれどアレルギーがある」「嫌いではないけれど苦手」「犬は好きだけれど猫は嫌

い」「猫は好きだけれど犬は嫌い」等、それぞれの価値観、嗜好はさまざまである。いろいろな考えがある中で、自分は何を考え、どう行動することが求められるのか、犬と暮らすことで、「他者を思う気持ちは育ったのか」「人間の多様性の理解」は進んだのか、その効果について今後検証する。

もう一つは、犬を飼う人口は増加しており、同時に高齢者が犬を飼えなくなる問題も浮上している。犬は、もともと聴導犬や盲導犬、介助犬のように福祉現場で役割をもって働いてきた。近年は、コンパニオンドックとして、老人ホーム等で利用者の心の支えになるケースも増えている。老人ホームに入居する時に、今まで飼っていた動物との別れに涙する高齢者もいる。年をとって住み替えをする人にとって、かわいがっていた動物の存在は大きい。施設での生活が、これまでの生活の延長線上にあるために、動物の存在は意義があるのか検討したい。

2. 令和3～4年度の取り組み

(1) 生活支援技術の授業での学び

①ドッグトレーナーの講義・演習

(2) 日常生活の中での関わり

①排泄物の処理

②犬とのコミュニケーション

③犬の立場になって考える

(3) 老人ホーム訪問

3. 次年度の取り組み予定

(1) 授業の継続

(2) 新入生への動機付け

(3) 老人ホーム訪問

(4) 学生の意識調査

口 演

キャンパスライフに対するアンケート結果（令和4年度）

稲吉 政 岳・桑原真裕子・武分 祥子・
竹村 香・林 正樹・三浦 弥生・渡邊 千春

1. 目的

本学学生の学生生活に対する満足度を調査することにより、短期大学職員の在り方を見直し、業務改善及び施設設備の充実を図る一助とする。

2. 調査方法

- (1) アンケート調査
- (2) 対象：本学に在籍する全学生（悉皆調査）
- (3) 調査期間：令和5年1月18日～令和5年1月25日
- (4) 調査内容：質問項目は、対象者の属性、サポート体制、教育施設・設備について
- (5) データ収集方法：オクレンジャーによるアンケート内容の送信と各自入力後の返信
- (6) 分析方法：単純集計（オクレンジャー）

3. 結果

対象者数438人中回収数355（回収率81.1%）

(1) サポート体制

履修登録や単位取得について相談できる体制については、92.4%が整っていると回答した。

休講などの連絡が学生にわかりやすく情報提供されているかについては、76.6%が提供されていると回答した。Web休講サイトの利用状況については、43.9%が利用していない、37.2%が休講サイトを知らないと回答した。学生便覧を活用しているかについては、65.4%が当てはまる、どちらかと言えば当てはまると回答した。

学生生活について相談できる体制については、87.9%が整っていると回答した。奨学金制度などの経済的サポート体制については93.0%が整っていると回答した。からだやこころの健康について相談できる環境があるかについては、8割以上がその環境にあると回答しており、その理由は、健康センターがあること、健康センター教職員による相談体制

の充実とアドバイザーの存在であった。進路・就職サポート体制について全般的に満足しているかについては、94.4%が当てはまる、どちらかと言えば当てはまると回答した。

職員の対応に満足しているかについては、財務・庶務課、広報課、教務課、学生課、地域連携センターおよび図書館の全てにおいて、当てはまる、どちらかと言えば当てはまると回答した者が9割以上であった。

(2) 教育施設・設備

講義室・実習室等の教育施設について全般的に満足しているかについては、89.3%が当てはまる、どちらかと言えば当てはまると回答した。

自習スペースについては、十分と回答した者は65.9%であった。

教室の空調の効きについては、十分と回答した者は79.2%であった。

キャンパス内の美化については、94.6%が行き届いていると回答した。

駐車場については、利用者の69.0%が利用しやすいと回答した。

4. 考察

(1) サポート体制

履修、学生生活、健康面のサポート体制は比較的整っている。学生便覧の活用の充実が求められる。

職員の対応については、満足を得ている。

(2) 教育施設・設備

自習スペースの確保、空調、駐車場の整備を今後も心掛ける必要がある。キャンパス内の美化は行き届いている。

5. まとめ

ここで得られた結果を各部署で共有し、連携の下で検討及び改善し、学生の満足度を向上させていきたい。